年遷宮ありたるを機としこの記念の爲にこれを印刷したものであるといふ。これによつて延曆延喜の帳式の及ばざりし仔細の點を明かにし得ると共に神宮尊儀の由來を知り得るであらう。（菊判、七二〇頁、豫約出版、京都表現社發行）〔肥後〕

◉莊園目錄　八代國治編

莊園の研究に貴き半生を捧げ、殊に晩年には皇室御領の研究に全力を傾注せられた八代國治博士が、その業の半ばにして學界の痛惜裡に逝かれてよりこゝに早くも七週の忌辰を迎へ、追慕の念新たなるを覺える。

故博士と親交あつた井野澪茂雄氏が、故博士の嗣子八代恒治氏と謀り、高柳光壽・廣野三郎兩氏の援助を得て故博士が研究の備忘錄とし、座右の索引として自ら編し置かれたる莊園目錄をこゝに上梓せられ先輩、知己に頒たれた。誠に意義深き事であり、又學界を裨益し、後進を啓發する事尠少でない。收むる所のものは、國別による皇室御領莊園目錄、莊園目錄、及びそれらの莊園目錄索引の三部である。例へそれが單なる備忘錄であり、研究半ばに成る未定稿に過ぎないとしても、此の種の目錄の故栗田博士の莊園考中に收められたものゝ外に存在しない今日、貴重なる文獻であらねばならぬ。蓋し莊園の研究は國史上の一問題、その研究には藉すに多くの時日を以てし、協力を要するものがある。我々は今畏敬すべき故博士の編錄せられたる努力の業績により、指示と刺戟を得、これが活用を計つて、其遺志を繼ぐべき責務あるを思ふ。此の意味に於て、本書の上梓せられたるについて關係諸氏に深謝を拂ふと共に、非賣品たるを惜む念切なるものがある。後進の學徒の爲にも實費を以て頒布せらるゝ便を與へられん事を冀望したい。猶本書には故博士の肖像、略歷、著書及論文目錄を收め、溫容、業績を追想せしむる好記念物たらしめてゐる。（菊版本文一四六頁、圖版一葉、附錄六頁、東京八代恒治氏發行、非賣品）

◉菅居古文書　第二卷

本書は嚮きに紹介せられたる如く、河内譽田八幡宮の舊社家であつた菅居家の所藏文書を輯錄せられたるもの整理・編纂は西田博士監修の下に神宮皇學館教授佐藤虎雄氏が當られたものである。

第二卷は古記錄を主とし、譽田八幡宮に關する緣起、神寶目錄、日錄、並に宗旨人別帳の類を收めてゐる。比較的近世のもの、德川中期以後のものゝみであるが、社人社僧間の動靜を知る材料を提示し、特に維新當時、神佛分離の際に於ける譽田八幡宮の狀況を知るに興味深いものがある。（菊版假綴六九〇頁、圖版四葉、京都菅居正治氏發行、非賣品）〔以上寺尾〕

◉石山本願寺日記　上卷

大阪府立圖書館長今井貫一君が在職二十五年を記念すべく出版せられたもの、從來「天文日記」または「本願寺日記」として知られて居た證如上人の日記を印刷したものである。それは天文五年正月より同二十三年八月迄十九年間の記事を含み本願寺門主の私生活より他家との交渉本願寺の行事、本願寺を中心とする石山六町の商業、堺その他近接都市の事情、支那商船の來航など有益の記事を隨所に發見することが出來、極めて興趣深きものがあると共に有力なる史料とすべきものである、本書が本願寺の經驗したいろいろの災危を免れて今日に傳はれるは一の奇蹟ともいふべく更に今回それが西本願寺藏の原本に基いて印刷され一般研究者の自由なる利用を許さるゝに至つたのは最慶賀すべきことである。附錄として本願寺系圖抄及下間家系圖抄を添へたのは本文の理解の爲に極めて適切なる參考となるであらう。（菊判七〇六頁、大阪今井貫一君在職二十五年記念會發行）〔肥後〕

◉吉田兼好筆自撰家集（複製）

兼好自撰の家集なるものは「兼好法師集」の名を以て群書類從の中にも收められてゐるが、今こゝに掲ぐる所の